からすましめいクリニック院長

ご挨拶

院長　岩重　達也

4月から、「からすましめいクリニック」に移り、佐藤院長の後任として働いています。佐藤先生は出勤日を減らされましたが、二人体制で診療しています。

振り返ると第二北山病院にお世話になって、あっという間の10年でした。副院長と同じくらい、急性期治療病棟の病棟医であることに自覚が必要でした。そこでいつも心がけていたことを少しだけ書きます。

職種が違う、性格が違う人間が集まって、病棟という医療チームができています。これを「本当のチーム」にするため、私は常々「カンファレンス！」「カンファレンス！」と言ってきました。入院患者さんについて、スタッフ各々が言いたいことを言い合って、この人がどう変わったら良いのか議論する。そこで得た治療方針に沿って、スタッフみんなが自分の専門の立場から関わる。すると、各人の力は少しであっても、同じ方向へ向いた力、ベクトルの総和はすごく大きなものになる。これが入院治療の効果だと思っています。

さて、新しい職場はクリニックです。外来診療です。大きなチームの後ろ盾はありません。一対一の治療関係の中で、どれだけ患者さんの日常生活をイメージできるかが大事というのが実感です。いわゆる共感能力を意識して手入れしていくことが今の課題です。

平成29年度　看護介護部研究発表会

看護研究発表を終えて

第二北山病院7病棟　看護師　新木　克哉

今回、初めて看護研究に発表者として参加させて頂きました。看護師の資格を取得して2年目であり、まだ知識・経験不足ではありましたが、病棟を代表して看護研究の発表者に選ばれた事を新たな第一歩として受け止め、看護研究に取り組ませて頂きました。

今回研究の対象とさせて頂いた患者様は、身体表現性障害といった疾患であり、依存性が強く、衝動行為も多々見られたため対応が難しいケースでした。そのため当初、患者様との距離感や対応をどのように行えばよいか戸惑っていました。しかしながら先輩看護師達の助言や疾患の再学習を行い、またアディクションについての院外研修にも参加させて頂いた事で少しずつ疾患と患者様への理解を深めていく事が出来ました。そして、患者様を理解するためのツールの作成や、医師・家族・病棟スタッフとカンファレンスを繰り返し行うことで、レスポンス・コスト法といった行動療法を行うことにも繋がり、未熟ながらも看護研究としての形ができ、自己のスキルアップになったと考えます。最後に、看護研究の機会を設けていただき、指導・助言・御協力頂いた皆様に、深く感謝いたします。ありがとうございました。

平成30年2月6日(火)　三幸会会議室

司会　第二北山病院　2病棟　川岡　聡史

【第Ⅰ群】　座長　北山病院　8病棟　峯野　仁志

第1席　長期間保護室を必要とする患者へのアプローチ
～行動変容法を用いた一事例～
第二北山病院　1病棟　内田　亮

第2席　精神科急性期病棟における私物管理
～より良い治療環境の提供を目指した業務改善に向けて～
第二北山病院　2病棟　北村　友志

第3席　病棟スタッフの手指衛生への意識
～改善の取り組みを行って～
北山病院　6病棟　福田　託也

第4席　解離症状を発症する患者の看護
～開放病棟に向けての取り組みラポール形成の必要性～
北山病院　7病棟　桐木平　賢一

【第Ⅱ群】　座長　第二北山病院　1病棟　柴田　敦史

第1席　患者の心に寄り添った退院支援
～セルケア能力を高める援助の難しさ～
第二北山病院　3病棟　片山　真梨子

第2席　アンケート調査による自己理解の必要性
～自己を振り返る事での意識・行動改革への影響～
第二北山病院　5病棟　阪口　雅文

第3席　統合失調症患者の退院支援看護
～ストレスマッピングシートを利用して～
第二北山病院　6病棟　石田　佐知子

第4席　身体表現性障害のある患者の看護
～他者依存・薬物依存に対し行動療法を行って～
第二北山病院　7病棟　新木　克哉

総　評　北山病院　看護介護部長　坂井　加津美
三幸会統括長　藤田　都司